

2026年3月31日

(株)神戸製鋼所 加古川製鉄所
関西熱化学(株) 加古川工場

降下ばいじん 加古川製鉄所 自主管理目標値未達成についての原因と対策について

加古川製鉄所では、粉じん対策の効果を確認するため、降下ばいじんに関して製鉄所影響値^{※1}3.0t/km²/月以下の自主管理目標値を設定し、継続的に対策を実施してきました。しかしながら、2025年8月度における加古川神鋼ビルでの測定結果が3.78t/km²/月となり、自主管理目標値を未達成となりました。地域の皆様にご心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

操業状況および設備状況を確認した結果、目標未達成に直結する異常な操業や設備トラブルは確認されませんでした。一方で、当該月は南風の頻度が高く、製鉄所からの粉じんが所外へ飛散しやすい気象条件であったことが確認されました。

近年導入した測定機器を活用しビッグデータ解析を実施した結果、事前処理地区^{※2}およびコークス製造地区において、製鉄所上空の粉じん濃度が高い傾向が確認されました。特に、2024年7月の未達成要因として特定した焼結工場南側地区に加え、コークス・石炭の取扱い工程に起因する粉じんの影響が一部認められました。

コークス製造地区では、集じん設備周辺における集じん能力の低下や、貯炭場における湿潤化が十分でない時間帯があり、強風時に粉じんが飛散した可能性があるかと判断しています。

現在、焼結工場南側区域においては、集じん配管ルートの見直しおよび集じん機の増設による集じん能力増強を恒久対策として2028年3月末完工に向け、計画的に進めております。また、コークス製造地区においても、集じん設備の保全・設備周辺の密閉強化、貯炭場の湿潤化管理の見直しなどの対策を実施・強化しています。

恒久対策が完了するまでの間、以下の対策を強化し、自主管理目標値の達成に努めます。

- ・発じん箇所の密閉強化
- ・集じんダクトの更新等による予防保全
- ・7月、8月を監視強化月間としたパトロール体制の強化
- ・建屋屋根洗浄等による二次飛散防止対策の継続

今後も降下ばいじん対策を重要課題の一つと位置付け、気象条件の変化にも耐えうる対策を講じることで、安定的な目標値達成に全力で取り組んでまいります。

<コメント>

今回の自主管理目標値未達成を重く受け止め、製鉄所内の事前処理地区およびコークス製造地区を含め、原因を踏まえた対策を着実に実行してまいります。

設備対策と管理強化の両面から降下ばいじんの低減に取り組み、安定して自主管理目標値を達成できるよう、継続的な改善を進めてまいります。

加古川製鉄所長 中村 昭二
関西熱化学 加古川工場長 稲益 裕修

参考

<2025年度 降下ばいじん 製鉄所影響値>

単位：t/km²/月

測定地点	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
神鋼ビル	2.18	2.03	2.51	2.86	3.78	2.41	0.53	0.93	0.57	0.61
別府小学校	0.87	1.62	1.69	1.60	1.66	1.07	0.42	0.46	0.62	1.39
尾上小学校	0.48	0.78	0.87	1.09	0.61	0.73	0.32	0.36	0.30	0.24

※1：製鉄所影響値

加古川市が測定している製鉄所近隣3ヵ所（加古川神鋼ビル、別府小学校、尾上小学校）の降下ばいじん総量のうち、不溶性量について、製鉄所から遠方の5ヵ所（環境監視センター、山手中学校、東神吉小学校、志方公民館、両荘みらい学園）の不溶性量を自然要因として差し引いた値を製鉄所影響値と定義しています。台風相当の強風影響分（明石气象台で南風風速 10m/s 以上）を除いております。



※ 自然要因等：環境監視センター、山手中学校、東神吉小学校、志方公民館、両荘みらい学園の不溶性降下ばいじん量の平均値。

※2：事前処理地区

高炉に装入する鉱石等を事前に焼き固めるなどの処理をする焼結工場がある地区